



山田 良秋 議員

災害（水害）対応について

答 東松山県土整備事務所が市野川の整備等を実施

初質問、町の
ために

問 県内で洪水ハザードマップを公表している市町村は33%にとどまっている。嵐山町では作成しているか。

答 地域支援課長 作成していない。現在、県は見直しを図っている。それを踏まえ早急に検討する。

再問 今水害の実際の被害状況を県に伝えられているか。

再答 地域支援課長 写真等を含め伝えてある。

問 町内の小学校・中学校には災害時の職員緊急マニュアルはあるか。

あるのか。

答 地域支援課長 現在規定はされていない。

再答 教育長 校長等と相談し施設のレイアウトを含め検討中である。

問 今回の水害は嵐山町にも大きな被害をもたらした。市野川の氾濫がとりわけ大きかった。今後の対策を伺いたい。

答 まちづくり整備課長 今回の災害を受け、埼玉県東松山県土整備事務所を確認したところ、今年度中に市野川の川袋橋から精進橋の下流100m程度まで、木の伐採及び土砂を取り除くとのことである。

台風経過後の区長の対応に感心した。災害時における区長の役割をどのように考えているのか。

答 地域支援課長 地域防災計画の中で、被害状況を的確に把握するため、地区の状況に詳しい区長等に依頼し、被害状況の把握に努めると定められている。今回も各地区の状況把握、各家庭の把握に努めている。



市野川（川袋橋下流）＝R元. 12. 8



長島 邦夫 議員

答 地域の多様な関係者を巻き込む、舵取り役

「観光地域づくり法人」DMOプロジェクトとは

「千年の苑」に
「エールを贈る！」

問 成功のうちに終了したラベンダー苑であるが、自然の猛威に多難な今後になってしまった。来年度に向けての進め方は。

答 農政課長 原因は多雨、日照不足、排水不良、土壌中の酸素不足が挙げられる。対策後、現時点で約4haの植栽を完了した。以降の運営にはプロジェクトチームを発足し調査研究を行う。

再問 プロジェクトチームの内容は。

再答 農政課長 協議会を継続的に発展させていく過程として観

用語

※観光地域づくり法人(DMO)：地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

光庁がすすめる「観光地域づくり法人」(DMO)の発足に向け、どのような法人にするか、6次産業化、土産品等の開発に町内すべての観光に関係する方々に協力をいただき、調査研究を進める。

町公共施設の管理運営は

問 海洋センター、総合運動公園、及び周辺散策路は体力向上に大きく利用されている。

(1)体力増強、健康維持のトレーニング器具導入は必要と考えるが。(2)内部、外部の公園トイレ共、社会ニーズに合っていない。子供も

大人も町民全てが使用する施設である。改修計画は。

答 教育委員会事務局 各種団体が多種多様に利用しておりトレーニング器具等を常設すると利用者の支障となることが考えられ、設置は困難である。及び現代ニーズに合ったトイレの改修は令和2年度末までに各施設の個別計画が策定されるので、トイレの洋式化も検討したい。

町道の維持管理は

問 センターラインを必要とする町道もある。消えていたら運転に大きな支障をきたし、事故の誘発を招く。

答 まちづくり整備課長 現実に消えているところがあるのは

事実である。幹線道路を優先的に地区からの要望も考慮、施工している。



秋季の4ha植え付けが完了した千年の苑＝R元. 12. 12